

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	井口喜源治の教育を学び合うことを通した、生涯学習振興に資する事業
事業主体 (連絡先)	一般財団法人井口喜源治記念館 安曇野市穂高4312
事業区分	(3)教育文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト / ハード / <u>ソフト・ハード</u> (該当項目に○印を記入)
総事業費	1,420,213 円 (うち支援金: 1,048,000円)

事業内容

1 講演会・演奏会

井口喜源治とそれに連なる人たちの教育への取り組み・生き方を、参加者が講演を通して共に学び合うことにより、今後の教育や学習のあり方について考える機会としなつた。また、地元の合唱団による、当時などの歌唱を聞くことを通して、時代背景や日本の伝統的なよいものを味わうことができた。

- (1) 期日・会場 10月20日(日)・穂高交流学習センター「みらい」
- (2) 講演会講師 三浦永光(元津田塾大学教授)
- (3) 講演会テーマ「井口喜源治記念館と内村鑑三」
- (4) 演奏会発表者 安曇野混声合唱団
- (5) 演奏曲目 「もみじ・故郷・荒城の月 他」
- (6) 参加者、人数 教育関係者・「井口喜源治先生に学ぶ会」会員・地域の人々、180名

2 「井口喜源治先生に学ぶ会」年間4回

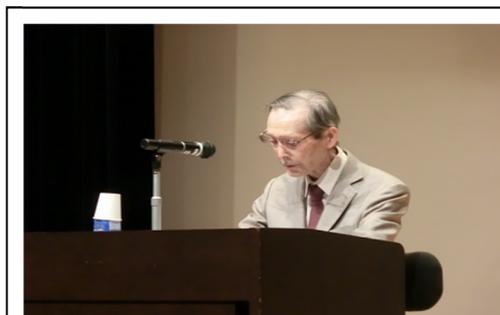
小中学校の教師等の教育関係者、地域の人々の参加により、喜源治の遺稿・記録などを読み合わせ、研究者の指導助言を得て、研成義塾の教育と喜源

治の思想・人物像について学んだ。

- (1) 期日・会場 1年6月8日,9月7日,
12月22日,2年2月15日
井口喜源治記念館及び碌山公園研成ホール
- (2) 講師 武富 保(信州大学名誉教授)
- (3) 参加予定者・人数 「井口喜源治先生に学ぶ会」会員・その他希望者
100名(延べ人数)

3 「安曇野人間教育の源流」の発刊

- (1) 井口喜源治の業績・後世に与えた影響
- (2) 井口喜源治の教えと私(自身の生き方)
- (3) 井口喜源治記念館の歩み等
成人を対象に生涯教育の学習教材及び小中学生に対する道徳等の教材研究資料として活用



【目標・ねらい】

- ① 「講演会」の内容の充実
- ② 「講演会」「学ぶ会」の参加者の増加と生涯学習の振興
- ③ 記念館の展示内容の充実と入館者の増加

4 井口喜源治の教育についてのリーフレットの発刊、インターネット・ウェブでの紹介（ホームページの継続）及び「みらい」展示ケースでの展示
本事業を社会へ広くアピールすることにより、関心を持っていただき、生涯学習への活用を図ることができるようにした。

5 屋外掲示施設の設置等

- ・ 記念館入口付近に約 2 m²の屋外掲示板を設置し、
記念館の展示や事業に関わる内容を掲示して、付近を通行する人に本館への関心を持っていただき、入館者・事業への参加者の増加につなげ、本事業の推進を図った。
- ・ 劣化、汚染した資料の修理及び学習用写真の作

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・ 「講演会」・「演奏会」への参加者が、180名と満席の状況であった。
- ・ 「研修会」に関わる入館者が約50%増と大幅にアップした。
- ・ 冊子「安曇野人間教育の源流」・新リーフレットの発刊、屋外掲示施設の設置、市中央図書館「展示ケースでの紹介」等により、宣伝効果が上がり来館者が増加した。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 井口喜源治の教育実践と生涯の歩みとを振り返って学ぶ機会の「講演会」では、専門的学識の深い津田塾大学名誉教授を招き、事前の打合せを綿密に行い、講演の内容を充実させることができた。参加者が80名増加し、その教えを広く啓発することができた。また、学校教育関係・公民館活動の関係者も参加し、「学ぶ会」と合わせて、青少年の教育及び地域の人々の生涯学習の振興を図ることができた。
- ② 「演奏会」では、地域の合唱団が喜源治の教育に関連して曲目を選定し、練習を重ねて、歌唱の発表をしたので、200名近い参加者が、心地よく鑑賞できる機会を持つことができた。
- ③ イベント・研修関係の入館者数が前年度より20%増加している。屋外掲示施設の設置や新しいリーフレットの作成により、一般の入館者も増加している。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

以下のように各具体事業への参加者の増加を図ることで、本事業の効果の継続を図りたい。

- 1 「講演会」は地域住民の関心が高い「北米移民について」テーマに取り上げ、その道の造詣の深い能登路雅子東大名誉教授を講師にお招きする。
- 2 「演奏会」は、当館にかつて寄贈された国内で2番目に古いといわれる「相馬黒光のオルガン」を演奏し、研成義塾当時の曲目等を参加者が楽しく鑑賞できる機会とする。
- 3 保存資料の複製品を作成し、講演会等に事業で展示したり、希望のある施設に貸し出ししたりして、より多くの地域住民の研修の場を設ける。
- 4 本館での研修が充実するよう、展示ケースの増設・ビデオシステムの導入を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある